

研究推進委員会通信

中高一貫プロジェクト

令和3年1月5日

今年度中に高等学校に生徒用タブレットが配布されることになり、リアルタイム授業支援アプリ「MetaMoj ClassRoom」を活用した授業方法の検討のため、令和2年12月14日に授業研究会を実施しました。郡上市内の小・中学校に案内を出しましたが、小・中学校でもタブレットが配備されるとのことで関心が高く、多くの先生が参観してくださりました。また、県内の高等学校からも参加してくださり、本校のタブレット利活用状況を視察されました。生徒の学び方については、アクティブラーニングの導入の際も「活動あって学び無し」が問題になりました。つまり、学習の手段が目的になってしまい生徒の学びの成果につながらなかったということです。私たちもＩＣＴ機器を利用することが目的ではなく、その利用による生徒の学びの成果が求められていきます。小・中学校の先生方からいただいたコメントにも、その視点の大切さが書かれています。いくつかのコメントを紹介します。



生徒のノートを画面表示して指導する(古典B)



前時の練習をふまえ、一人ひとりに発音の助言をしている(英II)

【小・中学校の先生方の感想】

- やりっぱなしの1時間ではなく、子どもは何かできるとよいのか、そして、**教師は何を価値付けて授業を終わるのか**、生徒と教師が共通理解していることが大事です。その点が、本時は少し弱かったような気がします。
- 予習をしてきたことについての発表や考えに対する自分の考えや感想の交流に活用したりできるといいのかなと感じました。はじめに先生が、モニターで授業の流れを確認されていましたが、**本時の課題も確認されるとよかった**かなと思いました。

上記のコメントをふまえると、ＩＣＴ機器を利用することが目的にならないためには、学習活動の目標を提示することがポイントになります。その目標を達成するためにＩＣＴ機器をどう活用するのかというところを念頭に授業を組み立てていくと良いのではないのでしょうか。これから数年でタブレットを使った授業があたり前になります。この大きな変化に対応するためにも、学び続ける教員である必要性を感じました。

また、放課後の棚野先生による学習会には17名の先生が参加しました。そこではＩＣＴ機器の利用とともに求められている「個別最適化された学び」を話題にしてくださいました。棚野先生は、個別最適化とは珠算塾で異なる級の生徒が同じ空間で珠算に取り組む姿が近いと話されていました。そう考えると、授業研究会の暮石先生が取り組んでいた生徒の活動が「個別最適化」だと感じました。このように、若手教員から学ぶこともあります。本校では相互の授業を参観する機会があります。参観することが目的ではなく、自分の授業に何をどのように取り入れていくのかを検討する場として捉えられると意義のある授業参観になると感じました。